

合同会社 Mt.Blue

すぎきのもっくんには、たくさんのきょうだい  
みんなは仲良く暮らしていました。  
でも、ちょっときゅうくつです。  
「このころ、お花が咲かないね。」  
「虫たちも遊びに来ないね。」  
「昔はとても賑やかだったのに・・・。」  
いまうすくら、ひっそりしています。













そんなある日、事件ひしけんが起おきました。

兄弟きょうだいたちが、次々に切られていったのです。

気きがつくと、もっくんも転ころがっていました。

辺りあたは暗く、土はじめじめしています。

「ぼくたち、切られたの？」

もっくんが聞くと、キリコが言いました。

「そうみたい。私わたしたち、どうなってしまうのかしら。」

だいまる兄さんが言いました。

「誰だれかが切られなけりゃ、森は死しんでしまうんだ。仕方ないのさ。」

「え～ん。ぼく、こんなの嫌いやだよお。」

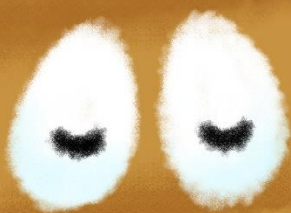
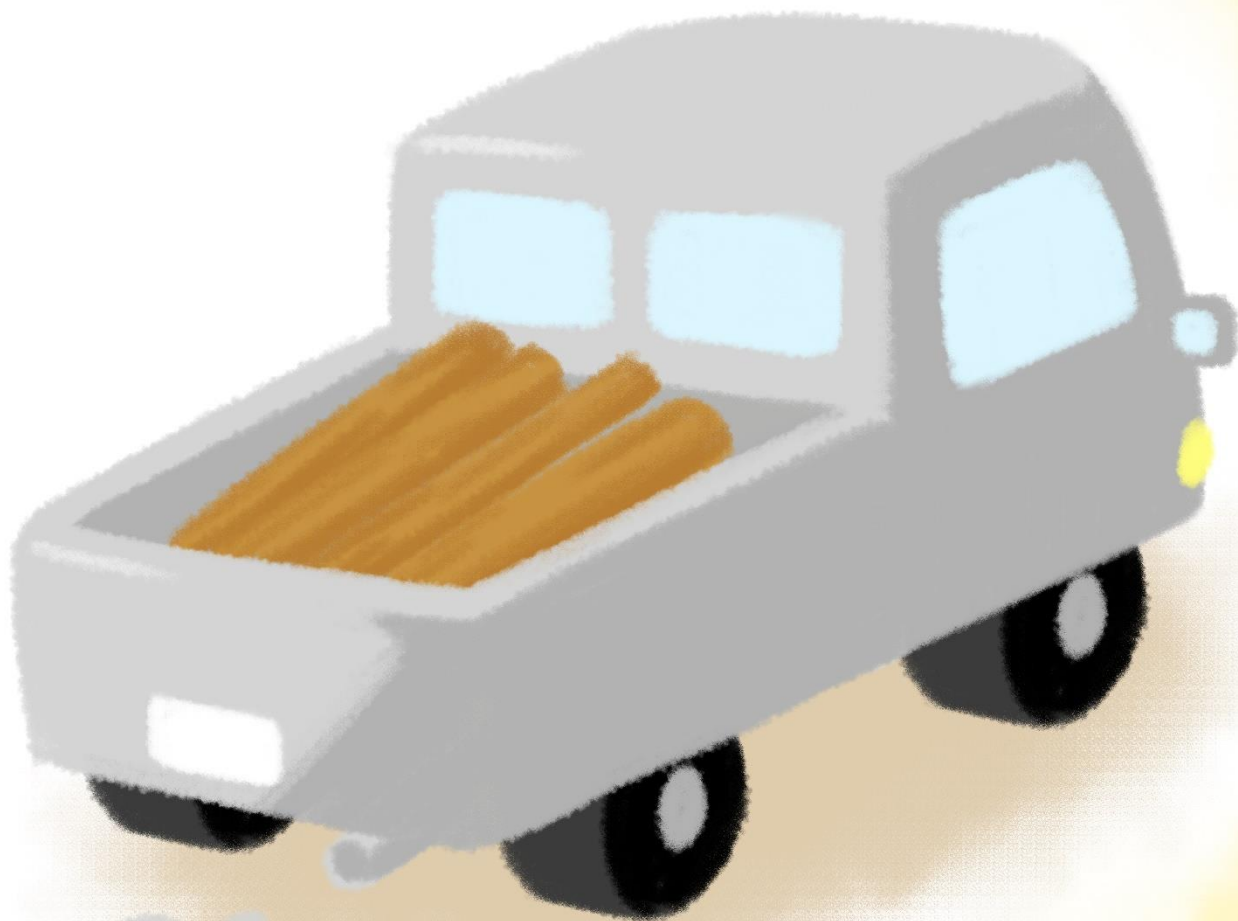
もっくんは、いつしか眠ねむりにつきました。





「この子たちを私にください。お願いします！」  
どこからか、男の人の熱心な声が聞こえてきました。  
「こんな木、一体どうするのですか？」  
「わたしたちに、考えがあるのです。」  
もっくんたちは、大きなトラックに乗せられて、  
運ばれていきました。





もっくんは、目を覚めましました。  
おじさんが、優やさしく言いいました。  
「きみたちを、生まれ変わからせたいんだ。」  
「生まれ変わかる？」  
「そう、一つひとになって、  
あたらあたらしい人じん生せいを生きいるんだよ。」  
「え・・・ぼく、怖こわい・・・。」





